

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	岡本 響子
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
新人看護師のリアリティショックに関する研究			
論文審査担当者			
主査	教授	岩永 誠	
審査委員	教授	坂田 桐子	
審査委員	教授	佐野 真理子	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、新人看護師の経験するリアリティショックがバーンアウトに及ぼす影響について縦断的研究を行ったものである。リアリティショックとは、新人看護師が学生時代に抱いていた期待と就労してからの現実とのギャップのことを指し、ギャップが大きいとストレスを引き起こし、時に退職に結びつくことが指摘されている。しかし、これまでの研究では、(1) 従来のリアリティショック尺度は期待と現実のギャップという観点が十分でなく、ストレッサーとストレス反応も混在していること、(2) リアリティショックの継時的変化の検討が不十分であること、(3) リアリティショックとバーンアウトとの循環的相互関連（トランスアクション）の検討がなされていないこと、の問題があった。そこで本論文では、ギャップの観点からリアリティショック尺度を開発し、それをを用いてリアリティショックとバーンアウトの関連についての縦断的研究を行うことを目的とした。</p> <p>本論文は、7章から構成されている。第1章では、新人看護師の抱える問題を概観し、リアリティショックとバーンアウトの関連をトランスアクションの観点から検討することの重要性を指摘している。第2章では、学生時代の期待と就職後の現実とのギャップの観点から測定するリアリティショック尺度の開発を行っている。リアリティショックは、ポジティブ要因3因子（新人教育・患者家族との関係・満足感）とネガティブ要因3因子（生活の変化・看護実践・職場の人間関係）から構成されることを明らかにしている。第3章では、リアリティショックとバーンアウトについて約1年間（就職前・就職3ヶ月後、6ヶ月後・12ヶ月後）の縦断調査を行い、その推移の検討を行っている。リアリティショックのピークは就職3ヶ月後であり、バーンアウトは6ヶ月後であることを明らかにしている。第4章では、就職前のバーンアウトが就職後のリアリティショックに及ぼす影響を検討している。その結果、就職前の情緒的消耗感がネガティブなリアリティショックを増加させ、個人的達成感の低下がポジティブなリアリティショックを低減させることを明らかにしている。第5章では、リアリティショックとバーンアウトのプロセスに及ぼすスキルと対処の影響を検討している。その結果、対処やスキルは直接バーンアウトの低減効果を示すものの、その影響力は少なく、リアリティショックの直接的な影響が強いことを明らかにしている。第6章では、バーンアウトとリアリティシ</p>			

ックのトランスアクション的な関係を、遅延交差モデルを用いて検討を行っている。バーンアウトの情緒的消耗感とリアリティショックの生活の変化及び看護実践とにトランスアクション的な関係が認められ、両者が相互に増強し合っていることを明らかにしている。第7章では、これまでの知見をもとにリアリティショックとバーンアウトのトランスアクション・モデルを提唱し、理論的考察を行うとともに、ネガティブなリアリティショックとバーンアウトの負の循環に介入する方法についての考察を行っている。

本論文は、(1) リアリティショックを期待と現実とのギャップとして捉え、新たな尺度開発を行った点、(2) トランスアクション・モデルを適用し、リアリティショックとバーンアウトの循環的相互影響過程を明らかにした点、(3) 4回にわたる縦断調査によりリアリティショックとバーンアウトの継時的変化とその主要な構成因子を明らかにした点、において非常に高く評価でき、貴重な知見を提供していると審査担当者は判断した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(学術)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。